



コロナ禍の保育 ～今、保育園で～

発信：九州合研常任委員会 2020.9.25

～出来ないではなく、できることを考えよう～

2020年1月末突然の新型コロナウイルスによる感染がはじまり、日本中が感染拡大の脅威に晒されることになりました。保育園でも不安と心配でどのような体制をとればよいのか行政からの毎日のように送られてくる大量の文章をみながらの対応でした。

特に、年度をまたぐ時期と重なり、わが園では祖父母交流会、卒園式、次年度の入園説明会、入園式などが中止になったり、規模を縮小したりの措置をとらざるを得ませんでした。

このような不安定な中、子どもたちは毎日元気な声で登園し、園庭を元気に走り回っていました。年度当初不足していたマスクも、職員は手作りして各自準備をするということでした。「子どもたちは密になって大丈夫ですか」「ソーシャルディスタンスをとることが難しい」などの声も職員より多く聞かれ、それでも「消毒、手洗い」の徹底を促すのが精いっぱいでした。

行事においても父母の会主催のレクリエーションの中止、年齢別懇談会、保育参観・給食試食会の中止など保護者との関わりも連絡帳以外殆どとることができず、子どもたちにとっても親にとっても楽しみがどんどん減っていくようになりました。夏祭りが近づいた6月の職員会議で「夏祭り」について話し合いをしました。『いつも通りはできないね、しかしコロナだから中止は可哀想。年長児の保護者のみ参加で日中行ってはどうだろうか?』と決まり、内容は職員で決めて会議に提案する事になりました。次の会議の時に提案された内容は、『夏祭りの週』を設けて一週間かけて子どもたちに夏祭りを楽しんでもらうという企画でした。子どもたちが自分たちで使ううちわやちょうちんを作ったり、給食室では平日のおやつにかき氷、夏祭り当日には、お昼ご飯は焼きそばに、ポテト、ウィンナーを作って夏祭りの雰囲気味わってもらおうというものでした。また、魚釣りごっこ、的あてゲーム、輪投げなども、子どもたちが魚や釣竿を作りました。最後は、くじ引きをしてお土産をもらうというものでした。(お土産は父母の会からのプレゼント) 昼間の開催でしたが、年長児は親子で、2、3、4歳児は職員と一緒にゲームなどを楽しんでいました。自分の作った魚を釣り上げ喜ぶ子どもたちや、2歳児さんも年長児さんが作った魚が釣れると大喜びで「またしたい」と言っていました。

広いホールに

手づくりちょうちん

を飾ったよ



保護者からも、「コロナで何もできないかと心配していました。」「子どもたちの為に楽しいイベントありがとうございます。」との言葉をいただき保育者への感謝の気持ちが伺えました。ほとんどの行事や保育の内容はブログにて見れるようになっていたので、安心されてもいるようです。

コロナだから仕方ないよね～中止しようかで片づけられない問題です。今まで普通に行ってきた行事ですが、今後の行事も違った形で職員同士知恵を出し合い、子どもたちが喜んでくれる内容を作り上げていかなければならないと思いました。

これからも運動会、発表会、マラソン大会、もちつき会など行事は目白押しですが、一つ一つの行事を「子どものために工夫して行う」ことを改めて感じました。



金魚すくいや 魚釣りゲームに 必死の 子どもたち



かき氷を食べ、舌を出して
色を見せ合う子どもたち

宮崎県 認可保育園
松木朋子（園長）

☆リレートーク、次は長崎県の毛谷村さんです！

